

甲9号証

令和3年 12月定例会 12月9日

○副議長（柿本和彦） 7番、宇根本議員。

◆7番（宇根本茂） 私も議員になっていろんな都市へ行きましたけど、大体やっていることは一緒なんですね、皆さん。特に類似するまちというのは。言葉まで一緒なんですね。では、何が違うかなといつたら、やっぱりそこに集中しているかどうか、やっぱり尾道は、先ほどありましたように、いろんな財産があつていろんなことをしようと思っているのかも分かりません。だけど、本当に何かに集中しないと、どれもいいことにならないのではないか。だから、私もずっと60年近く尾道に住んでいますけど、どうしていいか分からぬ。まだ尾道をどうしていいか分からぬというふうに思います。でも、何か集中してやつたら、こうすればいいんじゃないかなというアイデアはたくさんあります。そうしたものを集中して、人口減少も、絶対減らさないぞ、絶対増やすんだという思いでやっていただけたらというふうに思います。よろしくお願ひいたします。

次に、学校教育においては、いつ将来の学校編成の方向性が出てくるのか、その間、先が見えない状態で窮屈な登校を余儀なくされている未来の尾道を担う子供たちのことをどのように思われているか、お聞かせください。

○教育長（佐藤昌弘） ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

3小学校についてでございます。

まず、久保小学校、長江小学校は4月に、土堂小学校は9月に仮校舎により一時的に移転いたしました。

児童は戸惑いや不自由を感じているものの、おおむね落ち着いた学校生活を送っていると認識しております。例えば久保小学校では、共に学ぶをスローガンに中学生と挨拶運動を取り組み、自己肯定感が高まりつつある。長江小学校では、小・中ともにノーチャイムを実施し、中学生の時間を守る姿を模範としながら、自律的行動する姿勢が身についてきている。土堂小学校では、移転後3か月が経過し、学校施設や通学にも慣れ、学習活動に生き生きと取り組むことができるようになってきていると捉えております。

今後も、子供たちが伸び伸びと学校生活を送り、充実した教育活動が展開できるよう、教育委員会として支援してまいります。

教育委員会では、これまで市内の小・中学校の在り方として、子供たちの安全・安心はもとより、教育環境の充実を目指し、適正な学校規模の確保を基本としてまいりました。

3校の在り方としては、小・中連携教育校、小中一貫教育校、義務教育学校を、教育内容としては各学校のこれまでの伝統や地域の特色を生かしたものとなるよう検討しております。

また、児童・生徒数の推移や教室数を含む学校施設の面などから、学校を設置する場所についても検討しております。今後、子供たちの学びの場として最適な方向性を提案してまいりたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

◆7番（宇根本茂） 3小学校がとは具体的には書いていなかったんですが、お答えいただいたんで、でもその3小学校が今その学校の中では安定した教育を受けているということは安心してほっとするところであります。その御尽力、また学校関係者の方には本当に感謝する次第であります。

また、学校編成ですが、やっぱり学校だけの編成を考えると、やはりそこには無理があると。そこに住む人、その歴史、その、またその学校の卒業生、いろんな要因がそこに入ってきます。

そこで私が学校編成で一つのヒントと思うのは、この尾道市がどういったまちづくりの将来像を描いているのか、それを教育委員会がしっかりと市長部局とお話をされて、じゃ尾道市は将来どんな人口配分にするのか、合併した市町をどういうふうにしたいのか。その上で、じゃあこんな学校をつくろうと、それぞれ今教育長がおっしゃるように義務教育学校はすばらしいことだと思います。

そういうものをそれぞれの特徴があるものを検討されている。こういったことが私はこれから学校編成に

とっては大切なことだと思うんですが、その辺はどういうふうにお考えですか。

それと、だから教育行政が市長部局の市のほうの、尾道市のほうの考え方を待っていたり、自分たちで独立してやるんではなくて、教育行政の考え方を反対に行政にぶつけて、尾道教育はこんなにやりたいんだ、こんな学校をつくりたいんだ、だからまちもこんなまちにしてほしいということもぶつけられたらどうかなというふうに思うんですが、併せてお答えください。

◎学校教育部長（小柳哲雄） 市全体を見通した学校の今後の在り方についてという御質問だったと思いますが、こういった大きいこと、学校の将来に関わることについては、これまで市長部局のほうとも連携をさせていただきながら、それが実現可能なのかも含めまして、人口の過去の推移等も見させていただいたりしながら、これまで検討をしてきておりと認識しております。

また、現在では、教育大綱といいまして市長部局と教育委員会が一体となって教育行政を図っていくというものも策定しております、一緒になって子供たちの未来のために、今教育行政を進めているところでございます。

◆7番（宇根本茂） すいません。それが見えないから質問しているということで御理解いただきたいというふうに思います。

やっぱり一番気になるのは、尾道のあるべき姿と教育環境がマッチしない現状になってしまうということが今まで多々あったと思うんです。

そのことは、全然イレギュラーなところに学校をつくってしまえば、まちが違う形になったときにはそれがもう取り壊さないといけない、無駄なお金になってしまうということを、そこを私は思うんで、そこを理解いただきたい。

教育大綱か何か分かりませんけど、机のことでお話をされる中で、本当に生きた子供たちの生きた姿を想像しながら、学校編成も考えていいきたい。もう何かの方向性がないと、土堂小学校と言われましたから、教育長、4年しかないわけですから、すぐ来ます。

皆さんは、いつ頃と尋ねると、準備に1年、予算に1年と言うじゃないですか。そうしたら4年間はすぐ来ると思うんですね。でも、子供たちは4年間本当に夢を持って、だって小学1年生の子が4年生、5年生になるんですよ。

その思い出は皆さんどうですか、小学校のとき育った思い、それが中途半端にされるのか、僕たちは駄目だったけど、僕たちは仮校舎だったけど、僕たちが我慢した、私たちが我慢したこと、こんなにいい学校ができた、将来ここに自分の子供を行かそう、尾道に帰ってこよう、そういうものをつくり上げていただきたいというふうに思います。

ここからは私の少し個人的な意見になりますが、学校編成で今義務教育学校と言われましたけど、もう一つ言えば、少し気になるのが、これは私の思い過ぎかも分かりませんけど、御調高校、瀬戸田高校の存在です。

今後、合併、廃校も検討されるときがもしかしたら来るかも分かりません。家を皆さん建てます。家を建てる理由、ちょっと考えてみてください。便利、利便性、大型店舗がある、駅が近いというのが様々あります。

でも、やはり若い方が家を建てるとき、子育て世代には落ち着いた教育環境は大きな選択肢の一つになると思います。地域に学校がない、まずそんなところに子育て世代が家を建てるでしょうか。学校の存在は、家を建てる、人口密度が増えることにも大きな一助をなしているというふうに思います。

両方の地域が学園構想を持ち、今教育長が言られた義務教育、小学校・中学校の一貫教育を踏まえ、高校まで入れた幼・小・中・高一貫のまちづくり、こういったものも視野に入れて考えてみていただければ、私は何年も瀬戸田、御調、いろんな教育現場、教育と触れ合ってきましたけど、すばらしい環境じゃないかなというふうに思います。

さらに、尾道大学の存在も気になります。この10万都市で大学の運営も困難になるとも考えられます。

時代の変化に当たり、新たなる学部学科の新設は急務だと私は思っていますが、大学を巻き込んだ尾道学園構想、学校編成の一つの考え方として、何か言っている私もすごくわくわくするんですが、どうでしょうか。そういうことも学校編成の一助として考えていただきたいというふうに思います、いかがでしょうか。

◎学校教育部長（小柳哲雄）　学校の在り方についての御質問だと思います。

尾道には優れた教育環境、それから教育資源があるというふうに認識しております。

認定こども園から小・中、高等学校もたくさんありますし、大学もあるということで、非常に恵まれた市だと思います。

それが新しい学校をつくっていくときに、どこまでそういったものを取り入れていけるのか、どれだけの段階を一体化できるのかというのは、いろんなハードルがあると思いますけれども、ただそういったメリットといいますか、そういったものはやはり取り入れていくべきだというふうに思っておりますので、学校の制度とか在り方とはまた別のところで、その教育内容として取り入れるとか連携教育を行う、そういったことは十分考えていけるのではないかというふうに認識しております。

◆7番（宇根本茂）　これは私の思いでお伝えしただけかも分かりません。ただ、子供たちというのは夢を持ってその夢を実現させるために学校がある、大人がいる、地域があるんだと私は思っています。

現実的な形だけを求めるんではなくて、夢を求めてそういった学園構想をつくっていかれたら、尾道大学までもこの10万都市でしっかり支えられるまちになる、全国でもやっぱり尾道はすごいなというまちになるんじゃないかと想像します。

ぜひとも、お考えの一助にしていただければというふうに思います。よろしくお願ひいたします。